

1-11 ラオス

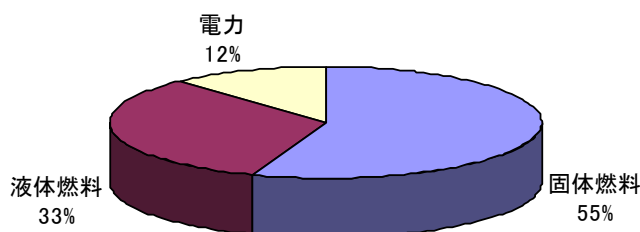
1. サマリー

1. エネルギー事情

ラオスは世界的に見てもエネルギー消費量が極めて少なく、また国内資源保有についても石炭等一部はあるものの、量的には限定的である。石油・ガス産業は発達しておらず、エネルギー消費の大半は薪に依存しており、その他水力等自然エネルギーによる電力消費となっている。ラオスの南部と北部のメコン水系には水力発電に適した地形が多いが、利用率は未だに極わずかに過ぎない。自動車燃料用石油製品は全て輸入である。

- (1) 一次エネルギー供給量 : 0.434 石油換算百万トン (2007 年)
- (2) 一人当たり一次エネルギー供給量 : 0.074 トン (2007 年)
- (3) エネルギー自給率 : 63.2%
- (4) エネルギー起源 CO² 排出量 : 1.25 百万トン¹ (2008 年)
- (5) 一人当たりエネルギー起源 CO² 排出量 : 0.19 トン (2008 年)
- (6) エネルギー別可採年数 : 原油 記載なし、天然ガス記載なし

一次エネルギー供給構成



(出所) 2007 Energy Statistics Yearbook UN

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

ラオスにおけるエネルギーに関する政府機関は、エネルギー鉱山省 (MEM : Ministry of Energy and Mines) が担当している。MEM 内の電力局 Department of Electricity : DOE) が政策や規制を担当しており、エネルギー政策策定、関連する法律、規制などの導入と適

¹ <http://www.eia.doe.gov/pub/international/iealf/tableh1co2.xls>

応、地方電化などにおいて責任を有している。また、エネルギー振興開発局 (Department of Energy Promotion and Development : EPD) が 2006 年の MEM への組織改変に伴い設立されており、国家エネルギー委員会 (LNCE) の役割を引き継いでおり、エネルギー促進と IPP プロジェクトの開発を担当し、IPP 開発の推進、提案されたプロジェクトの審査、場合によっては各種契約・合意事項の調整などに責任を有している。電力の供給等の実務については、MEM の下にあるラオス電力公社 (Electricite du Laos:EdL) が担当している。

(2) 基本政策

エネルギーに関する基本政策として以下の 5 点が挙げられる。①石油輸入依存を減少させるために、国内資源の開発を促進すること。②水力開発を積極的に開発し、電力輸出を促進し、外貨獲得に努めること。③エネルギー供給資源の多様化を図り、適正な価格政策を推進すること。④エネルギー政策立案能力を強化すること。⑤地方電化を促進し、再生可能エネルギーの導入などを通じて、薪炭の消費を削減し森林資源の保全を行うこと。

3. 日本とエネルギー分野における関係

政府レベルでのラオスとの関わりとしては、ODA 関係で 2008 年度にラオスに対し、無償資金協力 ODA として 38.97 億円、技術協力 ODA として 24.61 億円が供与されている。二国間援助では日本が最大の援助国になっている。また、関西電力は EGAT (タイ発電公社) などと協力して、ラオスのビエンチャン東方 120km の Nam Ngiep1 水力発電所 (IPP、容量 260MW) を 2014 年の操業を目指しており、タイの EGAT、関西電力、ラオス政府は 2007 年に電力購入に関する MOU を締結済みである。東京電力はラオスからの輸出電力の促進に役立てるためラオスの「電力系統計画調査」を日本工営と JICA を通じて受注し、調査結果を取りまとめている。さらに沖縄電力はラオス国内での太陽光発電マイクログリッドシステムの実証研究を行っている等、電力事業が進んでいる。

2. 主要エネルギー指標

(2007 年)

(1)	一次エネルギー供給量	43.4	石油換算万トン (日本の 0.1%)
(2)	一人当たりの一次エネルギー供給	0.074	石油換算トン/人 (日本の 2.2%)
(3)	GDP 当たりの一次エネルギー供給	10.3	石油換算トン/億ドル
(4)	エネルギー自給率	63.2	%
(5)	エネルギー起源 CO ₂ 排出量	1.22	二酸化炭素百万トン
(6)	一人当たりエネルギー起源 CO ₂ 排出量	0.19	二酸化炭素トン/人
(7)	エネルギー源別構成率		
	石炭	—	%
	石油	—	%
	ガス	—	%
	原子力	—	%
	水力	—	%
	再生可能エネルギー等	—	%
(8)	エネルギーの輸入依存度	—	%
(9)	石油の輸入依存度	—	%
(10)	輸入原油の中東依存度	—	%
(11)	原油輸入先	第 1 位	—
		第 2 位	—
		第 3 位	—

(出所) 2007 Energy Statistics Yearbook UN、(5)、(6) EIA International Energy Statistic